

# 新アメリカ留学日記 (1)

早稲田大学

California Polytechnic State University San Luis Obispo 留学中

服部 祐也

私が長年夢見てきた留学。その出発まで、あと一週間で切ろうとしている。今ここでもう一度、自分の気持ちを整理してみたいと思い、この文章を書いてみた。

## 1、憧れから決定まで

そもそも私が留学というものを考え出したのは、中学生の頃だ。その時の考え方はただ漠然と、英語を自在に操れるようになって、アメリカで勉強する姿がかっこいい、というものだった。そんな中学生の時の将来の夢は、日本国内に留まらず、世界を股にかけて仕事をしたいという、これも漠然としたものであった。高校時代には、学校内での交換留学を志望するも、あまりの英語の未熟さに不合格。大学では絶対に交換留学を目指そうと心に決めた。

大学進学後、留学を意識していた私は、積極的に学内の留学関係のイベントに顔を出した。そして、附属高校からの内部進学という英語力的なハンデを負いながらも、TOEFLの勉強に精を出した。その甲斐あってか、二年生後期の出願時のスコアは入学時のそれよりも80点アップさせることが出来た。そして、第一

志望の大学には決定しなかったものの、憧れだった交換留学の切符を手にすることが出来た。父から「やってみなさい。」と留学へGOサインが出たときに一人流した涙は、決して忘れない。

## 2、留学に向けて努力してきたこと

私はこの留学を少しでも成功させようと、自分なりに考えてやってきたことがある。「外国人」へ日本の文化を紹介するために、篠笛を吹けるようにしたことである。篠笛というとあまり聞き慣れないものかもしれないが、源義経が吹いていたとされる竹製の横笛である。夏の祭囃子などでも見かけることが出来る。

なぜ、私は篠笛を始めたのか。大学一年生の夏に独語の語学研修でドイツを訪れていた私は、ある日電車からの景色を見ながら、ふと日本の楽器をやろうと思い立った。ドイツという外国で日本人ながら何一つ日本のことを説明できない自分が情けないと思っていた時期だった。やるなら持ち運びが便利な笛がいい。そう思い、帰国後すぐに篠笛を始めた。それから約二年。ようやく人前で吹いても恥ずかしくない程度にまで上達した。



早稲田大学の留学準備クラスのクラスメートと先生と